

箱崎町では、町内会が中心となって、クマが出没する原因となっていたカキを伐採しました。ここでは、町内会長の高橋さんから伺った取り組みを紹介します。



箱崎町内会
高橋 道夫 会長 (74)

戻ってきたこの地を 自分たちで守るために

昨年の秋ごろ、町内でのクマの目撃情報が多くなりました。原因は、山林近くのカキの木だったので、地権者に相談して許可をもらい、すぐに伐採し、木についていた実も処分しました。それ以降はその付近でのクマの目撃はなくなりました。町内の別な地区でもクマは目撃されていますが、その多くはカキなどの果樹を食べに来ているものです。実のなった果樹を放置しないように、引き続き呼びかけていきたいと思えます。

この地域の世帯数は、震災前と比較して半以下の147世帯にまで減少しました。それでも、住み慣れた地域に戻りたいという想いで、再建した人も多いです。そうした想いで戻ってきたこの地で、人と人がつながり、地域が連帯し、自分たちの地域は自分たちの手で守るという意識で、今後も町内会活動を展開していきたいと思えます。

クマ対策のすゝめ

自宅や自宅周辺が、こんな状態になっていませんか？ 次の対策をして、クマの被害に遭わないようにしましょう。



匂いが強いものの管理に注意

クマは非常に嗅覚が優れています。納屋などに果物、穀物、ペットフード、アルコール類など、匂いが強いものを保管しないようにしましょう。

生ごみは、袋をしっかりと閉め、収集日の朝に出すなど、適正に廃棄処理するようにしましょう。



果樹やお供え物を放置しない

庭先に放置された果樹や家庭菜園にクマが寄り付く例が多く見られます。クマが寄り付く前に収穫するか、食べない場合は、実を落とし処分するようにしましょう。

お墓のお供え物に寄り付くこともあるので、お供えは持ち帰るようにしましょう。



果樹の適正管理

カキ、クワ、クルミ、クリなどの果樹は、クマの好物で、クマを引き寄せる原因となります。所有者が適正に管理し、放置している場合は伐採するようにしましょう。

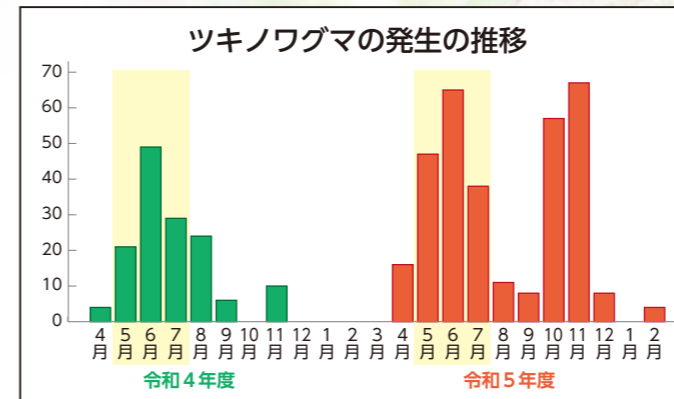
伐採した木にいるアリを食べに寄り付くこともあるので、伐採後の処理も大切です。

ツキノワグマの被害に遭わないために

問い合わせ
市水産農林課 林業振興係
☎ 27-8426



日を経るごとに暖かくなり、春から秋にかけてレジャーや運動など外出が増えてくる時期です。一方で、この時期はクマをはじめとする野生動物も活発になってきます。令和5年度はクマの目撃件数が増加し、人身被害も発生しました。こうした野生動物の出没には要因があります。クマの被害に遭わないために十分に対策し、被害を防ぎましょう。



気候変動などの影響で、クマの餌となる山の果樹や木の実などが不足すると、クマが餌を求めて、人里に降りて来ることが多くなります。令和5年度の市内のクマの目撃件数は321件で、令和4年度の143件と比べて、2倍以上となっています。例年、5月～7月にかけては特に、クマの目撃件数が増加する時期です。

山林や山の近くでの対策

- ・ キャンプや登山、山菜採りなどで山林や山の近くに入ることでも多くなるこれからの時期は、次のことに気をつけましょう。
- ・ クマの目撃情報や新しいクマの痕跡(糞や爪痕)のある場所を避ける
- ・ クマ鈴や、笛、ラジオなど、音の出るものを携帯する
- ・ 複数人で行動し、見通しの悪い場所や沢沿いでは掛け声や音を出すことで、自分の存在をクマに知らせる
- ・ 万一の遭遇に備え、クマ撃退スプレーを携帯する



クマが登った木にくっきりと残った爪痕



アナグマ

夜行性で、農作物などに被害も見られています。空き家や倉庫の脇に穴を掘って、住みかとする個体もいます。



ハクビシン

夜行性で、トマトなどの野菜や果物などの被害が見られています。木の枝や電線などを伝って渡ることも得意なため、駆除には注意が必要です。



ニホンザル

かぼちゃやきゅうりなどの野菜や果物などで被害が見られています。ニホンザルから作物を守るための防除対策は、電気柵でなければ効果ありません。



イノシシ

平成30年6月に市内で初めて赤外線カメラで撮影されました。現在は市の沿岸部での目撃や捕獲もあります。鋭い牙を持っているので、注意が必要です。



ニホンジカ

山ではシカの食害により、森林の防災機能の低下にもつながっています。住宅地に居つく例もあるため、むやみに餌をあげないようにしましょう。

クマ以外の野生動物にも注意!